

日本各地の魅力を外国メディアに伝える「プレスツアー」

2016年9月

公益財団法人フォーリン・プレスセンター

取材協力課 吉田 知加

公益財団法人フォーリン・プレスセンターの役割

— 外国メディアと日本をつなぐ架け橋として —

フォーリン・プレスセンター (<http://fpcj.jp/>) は、日本に関する多様で正確な報道が世界中で行われることを目指し、外国メディアの日本での取材活動を支援している公益法人です。このような目的で専門的な活動を行っている全国で唯一の公益法人で、今年10月で設立40周年を迎えます。

センターの活動は、有識者や閣僚などを迎えて外国メディア向けに講演をして貰う「プレス・ブリーフィング事業」や、特派員向けに日本各地への取材旅行を企画する「プレスツアー事業」、海外から記者を招き、日本での取材の機会を提供する「記者招聘事業」など多岐に渡ります。

なかには、日本を取材する外国記者からの問い合わせやリクエストに対応する事業もあります。例えば「日本でロボットの取材をしたいが、誰を取材していいのか分からない。開発者を紹介して欲しい」、「日本の匠の技を体現しているような職人さんを取材したい」など、様々な依頼が寄せられます。センターでは、そういった依頼に対して、リサーチをし、取材先にコンタクトして記者に紹介したり、インタビューをアレンジするといった橋渡しをしています。

このように、日々外国メディアの記者たちと接することによって、彼らのニーズや取材テーマの傾向などを知ることができるのです。



1



日本各地を訪れ、その魅力を伝える「プレスツアー」

— ニーズを踏まえて、報道の基になる企画をつくる —

フォーリン・プレスセンターの主な活動の一つに、外国メディアの東京特派員を対象に、グループでの取材旅行を企画・運営する「プレスツアー事業」があります。訪問先は北海道から沖縄まで全国に渡り、内容も経済、産業、社会、文化、科学技術など幅広くカバーしています。通常 10 名前後の各国の特派員が参加し、その内容が世界で報道されています。

センターでは年間 10～15 回の「プレスツアー」を企画・運営しており、その数は、**創立以来 40 年の歴史のなかで合計 480 回に上ります。経験と実績において他に類がない、草分け的な存在**と言えるでしょう。

プレスツアーに参加した各国の記者は、取材した内容を基にした記事、写真、映像を、日本発のニュースとして本国に発信しており、日本各地の情報を世界に紹介しています。

参加した記者たちからは、「日本各地を知り、取材源を得られるとても貴重な機会」、「センターのプレスツアーは、ジャーナリストのニーズをよく把握して構成されている。自分が知らなかったテーマや取材先に出会える」といった評価を得ています。（詳しくはリンクをご覧ください。）

http://fpcj.jp/assistance/tours_notice/



自治体が主催者となるプレスツアー

— その土地ならではの魅力を引き出し、伝える —

このような実績を背景に、**フォーリン・プレスセンターでは、自治体・公共団体等からの依頼を受け、地域に外国メディア特派員を招くプレスツアーを受託事業として行っています。**

このような、自治体が主催者となり、センターが受託して実施するプレスツアーでは、センターが自治体のニーズを聞き取りつつ、**外国メディアが関心を示す「ニュースになる」切り口や内容、構成**を提案します。日々外国メディアと仕事をする中で培ってきた経験により、その自治体ならではの魅力や特徴を、彼らにいか

伝えるかという部分で力を発揮できるのです。

企画提案の次の段階として、担当者が現地調査を行い、記者向けに取材内容を紹介する案内記事（取材案内）を日本語・英語で作成します。これをセンター独自の配信網を利用して、計 32 カ国 171 機関の記者に配信し、参加記者を募集。実施に際しても、参加記者の取りまとめから、当日の東京からの同行・進行管理まで一貫して引き受けています。

プレスツアー事例紹介

— 他の場所にはない魅力や特色、そして課題への取組みが注目される —

フォーリン・プレスセンターでは、年間 10 件程度、自治体等から受託してプレスツアーを実施しています。ここで最近の事例を紹介しましょう。

・長野プレスツアー（2016 年 6 月）

http://fpcj.jp/assistance/tours_notice/p=43376/

今年 6 月には、G7 交通大臣会合長野県推進協議会事務局と松本市からの受託事業として、「長野プレスツアー」を実施しました。山を対象とした祝日として世界初の「山の日」と、その記念式典の開催地であり、日本のアルピニズム発祥の地でもある上高地の自然について取材しました。



上高地の雄大な山々を前にカメラを回す台湾のテレビ記者



おやきづくりに腕を振るう元気な 92 歳の働き手を取材

このツアーには、さらにもう一つ別のテーマもありました。

それはずばり「健康長寿」です。長野は日本一の長寿県。健康診断の普及への取組みや食生活の改善など長年の地道な努力がその礎になっています。ツアーでは、これらについての具体的な事例を現場で取材しました。

プレスツアーに参加した記者たちは、上高地の美しい自然や歴史、観光と環境の両立を図る施策や地元の人々の活動について報道しています。

また、健康長寿についても、先進各国で高齢化が進むなか、県の取組みや元気に働く長野の高齢者の姿に注目が集まり、数々の報道が見られました。

***このプレスツアーに基づく報道の一部をこちらで紹介しています。**

<http://fpcj.jp/worldnews/tours/p=47072/>

・大分県プレスツアー（2016年7月）

http://fpcj.jp/assistance/tours_notice/p=45008/

今年7月には、大分県からの受託事業として「大分県プレスツアー」を実施しました。このツアーのテーマは4つ。まず1つ目は自然エネルギー。大分県は、再生可能エネルギーの自給率が全国1位で、日本最大の地熱発電所もあります。2つ目は、地場産業である木材産業。3つ目は、熊本地震によるマイナス影響からの復活を目指す温泉地の観光産業。4つ目は、伝統産業である小鹿田焼（おんたやき）の次世代への継承です。エネルギー、地場産業、地域経済、少子高齢化社会における伝統の担い手育成など、いずれも多くの国に共通するテーマです。

このプレスツアーでは、これらの取組みと共に、日本を代表する温泉地としての魅力や、伝統産業である陶芸の奥深さも伝えました。その結果、テレビ、新聞など多くの参加メディアがこれらについて報道しています。

***このプレスツアーに基づく報道の一部をこちらで紹介しています。**

<http://fpcj.jp/worldnews/tours/p=47056/>



日本最大の地熱発電所を撮影する記者たち



大分県知事インタビュー



小鹿田焼の20代の担い手取材

.....

さて、外国メディアにとってニュースになる素材とは何でしょうか？

ポイントはたくさんありますが、長野と大分の事例からは、以下の2つの点が挙げられます。

（1）その場所ならではの魅力や特色／他より抜きん出ているもの

「ニュース」として報道されるには、独自性、他と比較した際の優位性が求められます。最も重要なのは、客観的に見て「独自だと言えるか」、「他と比較してより

優れていると言えるか」という点です。客観性を持つことが真の魅力を発見し、他者に伝える際の鍵になると言えるでしょう。

長野の例を見ると、世界初の山の記念日、日本のアルピニズム発祥の地、長寿全国1位がこれに当たります。大分では、再生可能エネルギーの自給率全国1位、全国で温泉が最多、といった点が挙げられます。

(2) 課題への取組みとして、ユニークだったり、進んでいるもの

少子高齢化を始めとする世界共通の課題が最も進み、「課題先進国」とも言われる日本。外国メディアは日本がそれらの課題にどう取組むかに非常に注目しています。課題というとネガティブに聞こえるかもしれませんが、あらゆる時代、社会に課題はあります。重要なのはその課題にどう取組み、克服しようとしているか。日本の地方が課題に向き合う姿が、知恵やヒントとして世界で共有されるということが、大いにあるのです。

長野で取材した、健康長寿や高齢化社会への取組みがまさにこの好例です。また大分では、20代の陶工が活躍し、地域に活気をもたらしている小鹿田焼の里を取材しましたが、これは、伝統産業全体で高齢化が進むなか、同じような課題に直面する各国にとって一つのヒントとなりうる事例であったと言えます。

ポイントは他にもまだまだたくさんあります。どのような切り口がより伝わるのか、取材対象によって考えていく必要があるのです。

.....

日本の多様性、日本の魅力は地方にこそあります。

40年の歴史のなかで480回を数えるセンターのプレスツアーでも、訪れていない自治体が、全国に数多くあります。

私たちは、これまで培った経験を活かして、自治体の皆さまと共に、日本の地方の魅力を外国メディアが知り、世界に発信する機会をつくっていきたいと考えています。

フォーリン・プレスセンターでは、自治体の皆さまからのご相談・ご依頼を随時受け付けています。ご興味を持たれましたら、お気軽にご連絡下さい。



＜プレスツアー事業に関するお問合せ先＞

公益財団法人 フォーリン・プレスセンター
取材協力課

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-1 日本プレスセンタービル 6 階
Tel: 03-3501-3405 (取材協力課直通) Fax: 03-3501-3622
代表メールアドレス: ma@fpcjpn.or.jp

プレスツアー実施までの流れについてはこちらを覧下さい。

<http://fpcj.jp/distribute/cooperation/>